



NPO 法人 ぎふ多胎ネット

理事長 いとうがわせいこ 糸井川誠子さん (右) 三つ子のママ
のむらまりこ 野村万里子さん 双子のママ



笑顔も喜びも2倍

～可児を元気にするまちづくり活動～



経験した私たちだから分かる

ある子育て教室に参加した双子のお母さんは「子どもの面倒を見れないなら、連れてこないで」と言われたことがありました。人に迷惑を掛けるのではないかとビクビクしている人も多くいます。

そんなお母さんたちを支援したいと思い、以前から県内で多胎家庭の子育て支援を行っています。実は、可児市にも多くの双子ちゃんがあります。まちづくり活動助成制度を知り、可児市でも喜びや悩みを共有できる場所をつくりたいと思い教室を開催しました。私たちスタッフは、双子や三つ子などの子育て経験のある母親ばかりです。自分たちが味わったような苦労を、他の人たちにはしてほしくありません。育児は誰からもほめられることはなく、やって当たり前と思われがちです。しかし、教室に参加し苦労や頑張りと同じ境遇の仲間と共有することで、気分が晴れます。気持ちの共有だけでなく、いろいろな情報を交換できることもとてもいいことだと思います。

可児市がもっと子育てしやすく良いまちになるように、この制度を利用しています。

苦労エピソード

やることが倍

ミルクをあげたり着替えをしたり、1人分でも手のかかることを2人分やらないといけません。

ケンカを止めることが一苦労

通常きょうだいは自然に上下関係ができ、子どもなりに関係性を理解します。しかし、双子は力や立場が同じなので、ケンカが長く続いてしまいます。

出掛ける前にはシミュレーション

2人の子どもを同時に見るのはとても大変で、動き回るような年齢になるとさらに大変です。駐車場などの危険を考えると、出掛けることが難しくなります。

こういうしたまちづくり活動を知ること、可児のことをもっと好きになり、活気あるまちにしていきたいためのヒントが見つかるかもしれません。

いつもお母さんも多く、参加者がスタッフとして働き、市民活動の循環役となっています。

子どもの笑顔がいつほい

市内では、笑顔あふれるまちを目指して、多くの団体が活動しています。「可児で育つ子どもを応援したい」「何歳になっても安心して暮らしてもらいたい」そのどれもがまちをつくる源です。子育て支援や地域の見守り活動など、分野やかたちは違えど、まちを元気にしたいという思いが活動の原動力になっていきます。市では、こうした活動をまちづくり活動助成金として応援しています。

まちを元気にしたい